

# 聖霊の導き

新シリーズ  
～福音となったイエス～

2026・3・22

# ステファノの殉教と迫害

- 食事(分配)担当に選ばれた7人
  - ステファノ・フィリポ・プロコロ・ニカノル・ティモン・パルメナ・ニコラオ
- ステファノは教会最初の殉教者となった
  - 「それから、ひざまずいて、『主よ、この罪を彼らに負わせないでください』と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。」使徒7:60
- エルサレム教会に対する迫害
  - 「その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。」8:1

# ステファノの殉教と迫害

- 食事(分配)担当に選ばれた7人
  - ステファノ・フィリポ・プロコロ・ニカノル・ティモン・パルメナ・ニコラオ
- ステファノは教会最初の殉教者となった
  - 「それから、ひざまずき、使徒たちに負わせないでください。彼らはこう言って、眠りました。」
- エルサレム教会に対する迫害
  - 「その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散って行った。」8:1

迫害が宣教の拡大を  
生み出した！

# フィリポによるサマリア宣教

- フィリポはサマリアに下った
  - 「フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた」8:4
  - 憎み合っていたサマリア人にも宣教した
- フィリポのしるしによって導かれた人たち
  - 「群衆は、**フィリポの行うしるし**を見聞きしていたので、こぞってその話に聞き入った。」8:6
- ペトロとヨハネの応援
  - 「エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。」8:14

# 使徒言行録8章26－39節

さて、主の天使はフィリポに、「**ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザへ下る道に行け**」と言った。そこは寂しい道である。フィリポはすぐ出かけて行った。折から、エチオピアの女王カンダケの高官で、女王の全財産の管理をしていたエチオピア人の宦官が、エルサレムに礼拝に来て、帰る途中であった。彼は、馬車に乗って預言者イザヤの書を朗読していた。すると、“**霊**”がフィリポに、「追いかけて、あの馬車と一緒に**行け**」と言った。フィリポが走り寄ると、預言者イザヤの書を朗読しているのが聞こえたので、「**読んでいることがお分かりになりますか**」と言った。

宦官は、「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」と言い、馬車に乗ってそばに座るようにフィリポに頼んだ。彼が朗読していた聖書の箇所はこれである。「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように、口を開かない。卑しめられて、その裁きも行われなかった。だれが、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ。」宦官はフィリポに言った。「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか。」

そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの個所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。宦官は言った。「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」フィリポが、「真心から信じておられるなら、差し支えありません」と言うと、宦官は、「イエス・キリストは神の子であると信じます」と答えた。そして、車を止めさせた。フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。彼らが水の中から上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかった

# ガザへ下る道での出会い

- サマリアにいたフィリポに天使が語りかけた
  - 「『ここをたって南に向かい、エルサレムからガザへ下る道に行け』と言った。そこは寂しい道である。』」
  - 直線距離で70km フィリポは直ちに向かった
- エチオピアの高官の馬車が通り過ぎた
  - 女王カンダケに仕えていた宦官
  - エルサレムに礼拝に来て帰る途中だった
  - イザヤ書を朗読していた
- 聖霊が馬車を追いかけるかと命じた
  - 「すると、“霊”がフィリポに、『追いかけて、あの馬車と一緒にいけ』と言った。」

# ガザへ下る道での出会い

なぜエチオピアの宦官がユダヤ教の改宗者になったのか？

なぜわざわざエルサレムまで来たのか

「宦官」は神殿に入れな  
いののに...

なぜ彼はヘブライ語の聖書を読めたのか？

- フィリポにエチオピアの宦官が語りかけた
- エチオピアの高官の馬車が通り過ぎた
- 女王カンダケに仕えていた宦官
- エルサレムに礼拝に来て帰る途中
- イザヤ書を朗読していた
- 聖霊が馬車を追いかける
- 「すると、「霊」がフィリポに、『**追いかけて、あの馬車と一緒に**行け』と言った。」

ローマ行政長官の支配領  
 ローマのシリア州 (アコ)  
 テカポリスの町

3  
 ・テカポリスとアスカロンは、シリア州を治める  
 ローマの支配者の下に独立を保った。

4  
 大 海  
 (地 中 海)

アケラオはヘロデの死によって、ユダヤ、サマリヤ、イドマヤの支配者になった。彼の治世は、王位を剥奪され、追放されたA.D.6まで続いた。彼の領土は、その後ローマ行政長官の下に置かれた。

ヘロデの妹サラメは、アゾト、ヤムニヤ、ファサエリスを与えられた。これらは徐々に、アウグストゥスの妻リグィアや皇帝テベリオの手に渡った。

ガザ

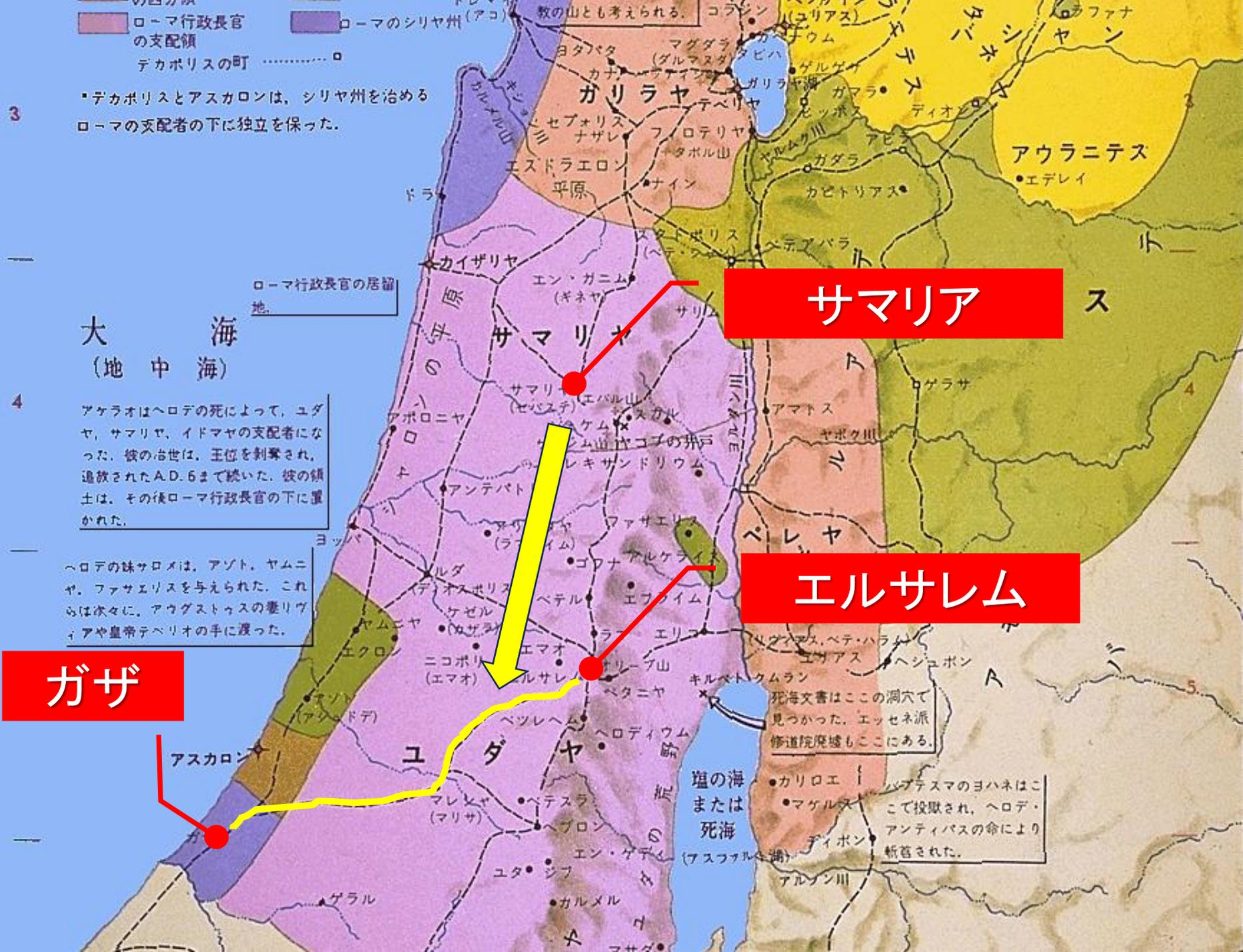
サマリヤ

エルサレム

塩の海  
 または  
 死海  
 (アスファルト湖)

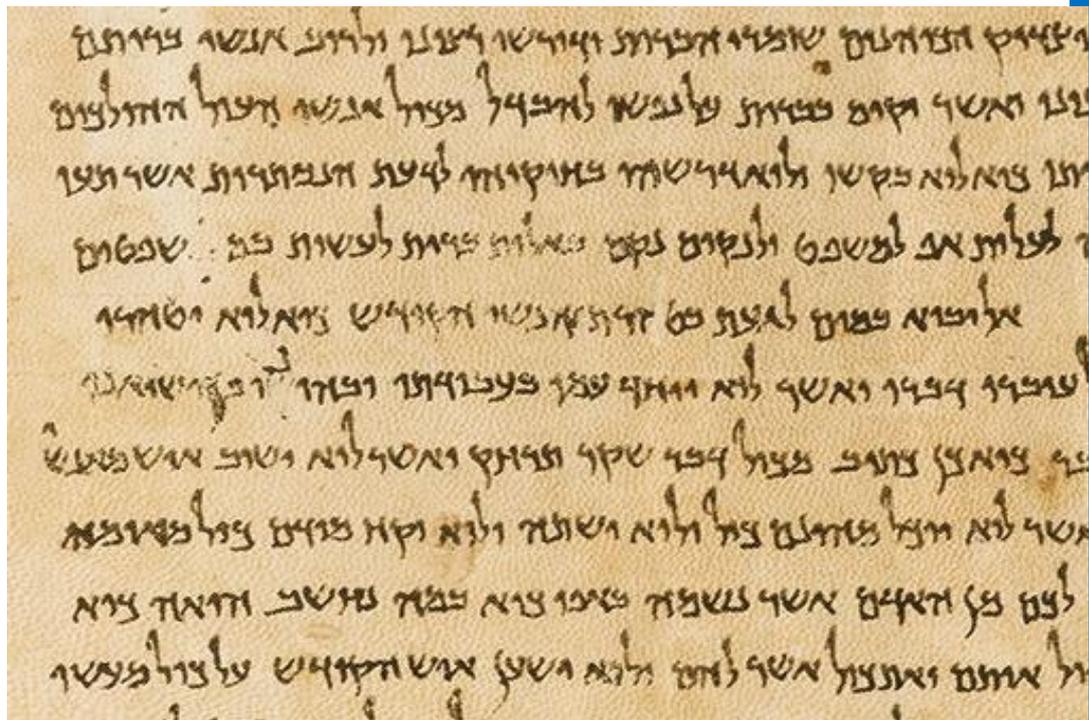
死海文書はこの洞穴で見つかった。エッセネ派修道院廃墟もここにある。

カリロエ  
 ・マゲルヌ  
 ・ディボン  
 ・アルノン川  
 ・バプテスマのヨハネはここで投獄され、ヘロデ・アンティパスの命により斬首された。



# 馬車に乗り込むフィリポ

- 馬車の人物に話しかけるフィリポ
  - 馬車の中からイザヤ書を朗読する声が聞こえた
  - 「読んでいることがお分かりになりますか」
- フィリポに説明を頼む宦官
  - 「『手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう』と言い、馬車に乗ってそばに座るようにフィリポに頼んだ。」
- 宦官が読んでいたのはイザヤ書53章だった
  - 全長約7mもある巻物の終盤あたりを読んでいた
  - 日本語聖書で読んでも約3時間かかる
  - エルサレムで読み始めたとすると30kmあたりか？



# イザヤ書の巻物 (死海写本)

# メシアについて語る

- 苦難のメシア預言を読んでいた宦官

- 「**彼**は、羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように、口を開かない。卑しめられて、その裁きも行われなかった。だれが、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ。」

- 宦官は、この人は誰なのか尋ねた

- 「預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。」

- この個所から福音を語ったフィリポ

- 「フィリポは口を開き、聖書のこの個所から説きおこして、**イエス**について福音を告げ知らせた。」

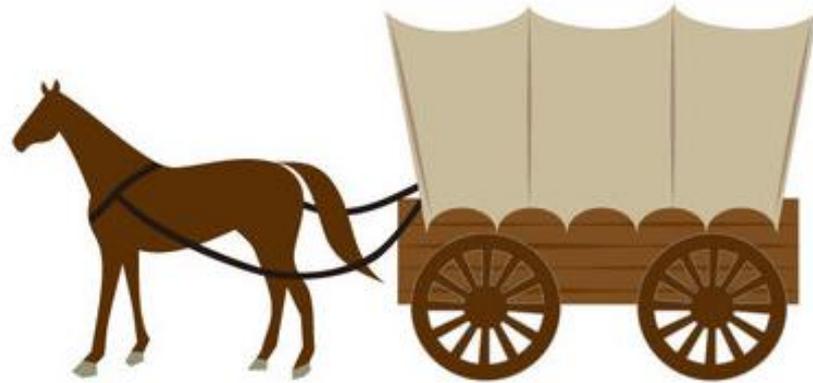
# 宦官の洗礼

- 宦官が洗礼を申し出る
  - 「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」
- フィリポは宦官の信仰を確認し洗礼を授けた
  - 「『真心から信じておられるなら、差し支えありません』と言うと、宦官は、『イエス・キリストは神の子であると信じます』と答えた。」
- 聖霊に連れ去られたフィリポ
  - 「彼らが水の中から上がると、主の霊がフィリポを連れ去った。宦官はもはやフィリポの姿を見なかったが、喜びにあふれて旅を続けた。」

# 神様のタイミング

- エチオピアにユダヤ教が伝わり、宦官が信仰を持ち、ヘブライ語が読めるようになっていた
  - どのような経緯で？ どうやって？？？？？？
- 宦官はエルサレムに来て巻物を買って、読みながら帰るところだった
  - 神様は、**真理を求めた一人の異邦人のために** フィリポを遣わされた
- **フィリポの横を通るときにちょうど53章を読んでいた！**
  - サマリアから **70km?** エルサレムからガザに向かう
  - 馬車ですれ違うタイミングで **53章** を読んでいた

イザヤ書  
53章



# 聖霊の導き

- フィリポはサマリア宣教の真っ最中だった
  - 何の理由も告げられず、突然「エルサレムからガザへ下る道に行け」と言われた
- 聖書を読んでいる声が馬車から聞こえた
  - 寂しい道をトボトボ歩いているとイザヤ書を朗読している声が聞こえた
- 馬車を追いかける、と命じられた
  - フィリポは必至で走り寄った（馬車だから！）
- そこにいた外国人に福音を伝えたところ、イエスを神の子と信じ洗礼まで希望された！

# 聖霊の導き

- フィリポはサマリア宣教の真っ最中だった
  - **何の理由** たった一人の人を救うためでも聖霊は全力で働かれる
  - 聖書を読ん 寂しい道で ている声
  - 馬車を追 人を探しておられる
  - フィリポは (から！)
- そこにいた外国人に福音を伝えたところ、イエスを神の子と信じ洗礼まで希望された！